

## 議事録 兼 報告書

会議名称	伊那市上下水道事業運営審議会
日 時	令和5年7月18日（火） 10:30～11:20
場 所	伊那市役所 庁議室
議 事 内 容	
<p>(進行 水道部長)</p> <p>1 開会のことば 水道部長</p> <p>2 あいさつ 会長 異動職員自己紹介</p> <p>3 会議事項（議長 会長）</p> <p>(1) 令和4年度水道事業及び下水道事業の決算状況について</p> <p style="padding-left: 20px;">・資料により事務局説明</p> <p>《質疑討論》</p> <p>(会 長) 委員の皆さんからご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>(委 員) 人口減少の中で、使用水量や収益も減っていくと思いますが、市民にとっては料金の値上げが一番心配されるところです。今後、施設の老朽化が進み、借金もまだ残っている中で、これまでと同じ水準の料金を維持できるのか、将来的な見通しはどのようにでしょうか。先ほど一般会計から繰入金をもらい、料金を据え置いているという話もありました。今後、いくらでも繰入金を増やしてもらえるということであればよいのですが、そんな訳にもいかないでしょうから。</p> <p>(事務局) 3月の会議でもお話したと思いますが、令和5年度から7年度までは、水道料金、下水道使用料ともに据え置きということで決定しております。このことは、最終的には市長の判断によるものですが、特に下水道事業については、大きな企業債残高がある中で年間6.5億円を繰り入れ、料金を据え置くことにしております。公営企業ですので受益者負担が原則ではありますが、昨今、電気やガスなどの料金がどんどん値上がりしている中で、水道・下水道も同じような形で値上げしていくのは現実的ではないという判断により、料金の据え置きを決定したということでございます。</p> <p>また、料金改定は3年に1度検討をしておりますので、令和8年度以降の料金については、令和7年度に検討することになります。先ほど動力費の増加についても触れましたが、経営の立場からすると、こうした経費が非常に負担になっていることは間違いないです。そうした中でも、上下水道は生活に無くてはならないライフラインと</p>	

して、最終的には市長の判断になりますが、皆様からも意見を伺いながら料金を決定していくこととなります。

人口減少や施設の老朽化など、間違いなく課題としてあるわけですが、これは伊那市だけではなく全国的な問題になっています。こうした中で、県の主導により広域化についての検討も始まっているところであります。現在、研究を始めたところであり、具体的なことはまだ決まっておきませんが、利用者の皆様にできるだけ料金を値上げせず供給していくためにはどうすればよいか、という中で一つの選択肢として出てきた考え方になります。

(水道部長) 広域化や広域連携については、私が委員として検討の場に出席していることもありますので、私から説明させていただきます。水道事業については、水道法の改正によりまして、都道府県が令和4年度までに水道広域化推進プランを策定することになりました。上伊那でも県と8市町村、上伊那広域水道用水企業団を含めて昨年度までに広域化推進プランの検討を行い、その結果として、現在箕輪から駒ヶ根市までの5市町村が上伊那広域水道用水企業団から用水の供給を受けていますが、企業団の供給事業と5市町村の給水事業を統合する「垂直統合」により広域化の検討を進める方向で県の広域化推進プランがまとまったところであります。統合することによるメリット・デメリットなどの検討が、今年度から県の主導で始まっております。伊那市として、統合することが有利なのか、不利なのかということも含めて検討を進めていくこととなりますが、全体的に人口が減り、施設の老朽化が進む状況の中で、それぞれの市町村が人員配置して経営していくことができるのかということ、10年、20年、30年という長いスパンで見ると、なかなか厳しい部分もあるので、統合までいかどうかは別として、全体としては協力しながらやっていく中でコストを削減していくという方向になろうかと思えます。

また、下水道につきましても、同じように広域化プランを策定するということになりました。上伊那地域の公共下水道の処理場は、全て長野県下水道公社へ委託をしているということで、薬品の共同購入など、協力できる部分はすでにしてきておりますが、昨年度、上伊那の8市町村と県と下水道公社を加えまして、広域連携研究会を発足し、私が座長となって研究を始めたところです。先日も今年度1度目の会議を開催しましたが、今後汚水量が減り、経営が苦しくなることは明らかであります。そうした状況の中でこれからどうするのか、ということになりますが、下水道も地形などにより、水道以上に統合が難しいという課題もあります。経営をさらに効率化することができないか、各市町村の中でも処理場を統廃合するなどして、いかにコストを減らしていくか、ということの研究しているところであります。伊那市にとってどのような方法が良いのか、また地域全体にとってどのような方法がよいのかということを検討して、できるだけ料金を上げずに経営を継続していくことを考えていきたいと思っております。広域化の検討状況も審議会の中で折々報告をさせていただきたいと思えます。

(会長) 広域連携について検討を始めたということですが、いつ頃を目途に結論を出すなど、

スケジュールは決まっているのでしょうか。

(水道部長) 期限が切つてある訳ではないのですが、今年度中に、ある程度具体的な方向性というものは出していくことになると思います。実際に統合ということになりますと、料金の格差の調整などがありますので、5年、10年というスパンが必要になると思いますし、統合という結論になるかどうか未定です。いつまでに、という見通しも立っておりませんが、できるだけ早い時期、ということをお願いしたいと思います。

(会長) わかりました。こういう課題は、シミュレーションの数値を表すところまではできても、そこから先の調整や政治的な判断による部分もありますので、なかなか難しいとは思いますが、まずはシミュレーションの結果を出すことが大事だと思いますので、その部分はしっかりやっていたらと思います。

私の大学もそうでしたが、電気代の高騰がひどいですね。何とか今年は研究費を削らない方向で過ごせましたが、国の研究機関では、今年すでに研究費や旅費が削られ、その費用が全て電気代にまわっているようです。以前の水準に戻るのかどうか見通しが立たない中で、これは単なる電気代だけの問題ではなく、環境問題とも深く関わっていると思います。クリーンエネルギーや再生可能エネルギーなど、伊那市でも取組を進めているわけですが、今後、本格的にこうした取組を進めていかないと、いろいろなことが電気代に足を引っ張られてしまうのではないかと危惧しています。これは水道事業だけに限ったことではないので、市、上伊那地区、県ですとか、水道、下水道という枠を超えた部分での協力・共同体制を早く作っていく必要があると思います。今日の資料でも、料金の徴収率は限りなく100%に近い状況まで頑張っていたと思いますが、どんなに一生懸命頑張っても、結局最後は電気代に吸収されてしまうような気がしないでもありません。エネルギーが、安く安定した利用につながらないと、なかなか難しいのかなと思いました。

水は人間が生きていくうえで絶対に必要なものであり、そうした中で、上下水道の料金をどのようにとらえていくのかということが大事かと思います。料金は3年毎に検討していくということですが、昨年度の料金改定の検討では、現在の状況の中で値上げはできないと市長が判断されて、一般会計から繰入を行う形になっていると思いますが、公営企業は企業的な感覚だけでやっていくと悪循環になる可能性があります。住みにくい街になると、ますます人口が減ってしまいます。基本インフラである上下水道は、本当に根幹の部分ですので、慎重に審議していく必要があると思います。本審議会もそのあたりは十分に意識しながら、皆さんからご意見をいただき、市の行政へ反映していくことが必要だと思いますので、ご協力をお願いします。

本日資料を配布いただいたところですので、細かく見ていくと疑問等が出てくるかもしれません。何かありましたら、今後の審議会でも適宜ご意見をいただければと思います。

他にご意見が無いようでしたら、次の議題に移ります。

(2) 水道及び下水道事業経営健全化計画の進捗状況について

・資料により事務局説明

(委員) 確認ですが、評価というのは、誰がしたものになるのでしょうか。数値を見て自己評価をしたということでしょうか。

(事務局) そのとおりで、内部評価ということになります。数値目標や取組内容について、まず担当係長が評価を行い、課長が評価した後、最終的に水道部長が評価を行っております。一昨年、岡野会長にご指摘いただきまして、「かなり順調」や「順調」など、言葉による基準に曖昧さがあるということで、例えば、「かなり順調」であれば「120%以上」とするなど、より分かりやすい評価となるようにしております。

(会長) この手のものは、だいたい自己評価が求められまして、自己評価の結果を、場合によっては第三者に評価してもらおうという手法がよく取られていると思います。この資料は、市民の方が誰でも見られるようになっているのでしょうか。

(事務局) こちらの資料は、具体的には公表しておりません。

(会長) この形でなくても、年度の節目で経営状況などについて、それなりの広報はしているでしょうから、市民の皆さんが評価する機会はあるのだと思います。その時にどういった基準に基づいて達成しているのか、していないのか明確でないといけないということで、以前にそうした要望を言わせていただいたことはあります。

全てが順調であればよいのですが、こうした計画では、遅延の項目が出てくることもあろうかと思えます。問題は、遅延に対して今後どういった対応をとっていくかということで、遅延した原因を説明することは当然ですが、次年度以降どう対応していくのかという見通しはいかがでしょうか。

(事務局) 大切な視点だと思います。評価につきましても、評価をしたから終わりではなく、今年度中に1年先送りした経営健全化計画の改訂版をまとめることとなりますので、評価の結果を加味したうえで、次の経営健全化計画を策定していくこととなります。

(会長) わかりました。

(3) その他

・なし

4 その他

・次回会議日程の確認（令和6年3月に開催予定）

5 閉会

以上